

田部忌寸櫛子、大宰に任ずる時の歌四首

四九二番

衣手に取りとどこほり 泣く子にも まされる
我を置きていかにせむ

四九三番

置きて行かば 妹恋ひむかも しきたへの 黒髪
敷きて 長きこの夜を

四九四番

我妹子を 相知らしめし 人をこそ 恋のまされ
ば 恨めしみ思へ

四九五番

朝日影にほへる山に 照る月の 飽かざる君を
山越しに置きて